



外国人留学生交流支援団体「グローバル愛知」の発足

8月31日（木）、ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋で、名古屋地区の留学生、大学関係者、自治体関係者、社団関係者70名が参加し、一般社団法人グローバル愛知の設立パーティが開かれた。



グローバル愛知の代表理事を務めるナガサキ工業社長長崎洋二氏は、昨年6月、未来を創る財団が名古屋で開催した「定住外国人受け入れ地域意見交換会」の意見発表メンバー。留学生が就職できないまま帰国する現状を憂慮して、未来を創る財団と意見交換を重ね、中部・名古屋地域の経営者に呼びかけて、社団法人を設立した。



（一社）グローバル愛知は、学生が企業に勤務する場合に不可欠な日本語能力の向上に向けて、日本語教室を開いている。企業と留学生との交流会も行なう。開会の挨拶にたった長崎代表理事は、多くの留学生を前に、さながら留学学校の校長先生。

左：開会挨拶の長崎洋二代表理事

知名度の高い企業名しか知らない留学生が日本で就職するためには、まず地域企業のことをよく知る必要がある。仲間との情報交換も重要だ。交流会の運営はカギである。

本日司会のエリオット・コンティ事務局長は、自身、今年3月まで留学生。米国オハイオ州出身。流ちょうな日本語と英語で会場を盛り上げる。南山大学留学生として来日後、大阪市立大学大学院で社会学修士。大阪の貧困地区西成を研究フィールドに、ニューカマー移民の観点から西成地区を説いた。修士論文はもちろん日本語。



企業の側も、特別視せず受け入れる環境を整えるため、勉強する必要がある。外国人は、日本に生まれていたら普通知っていることも知らないことがある。

グローバル愛知に賛同する企業は、人手不足を実感する中小中堅企業が主体だが、安く外国人の労働力を使う考えは毛頭なく、優秀な人材を期待する企業が多い。グローバル愛知の理事7名中6名は、みな、地域の有力中堅企業の経営者だ。



乾杯で挨拶する愛知県政策企画局国際課の本庄課長補佐。

同国際課は、今まで企業に説明して回る側だったが、今回は企業の積極的参加で、後見的役割でバックアップ。

官の旗振りでなく、民間企業が自ら動いたことがグローバル愛知の特色だ。地域自治を統括する県との呼吸もぴったり合っている。留学生を指導する大学教授他、大学関係者の参加も多かった。

留学生が企業に就職する場合、学生生活ですでにある程度、日本社会を体験している。日本が好きでやってきた留学生が多い。指導する大学関係者の熱意も大きな力である。未来を創る財団は、後援団体として、グローバル愛知を側面支援している。

未来を創る財団石坂芳男代表理事は「地域企業の熱意がグローバル愛知の発足に繋がった。地域活性は、未来を創る財団がかかげる主要4課題の一つであるが、生活者として外国人を受け入れる地域と協力し合い、定住外国人としての留学生受け入れによって、地域の活性がさらに進展していくことを期待したい」と挨拶した。

ものづくり日本をけん引する中部名古屋地域の一角から起こったこの動きは、一味違った産官学連携の好例である。民から興していく地域再生が、さらなる広がりへ繋がるよう努力していきたい。

